

公益財団法人 大山健康財団
令和 7 年度事業計画書
(令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日)

本財団は、定款に基づき下記の公益目的事業等を計画的、着実に実行、推進して行く。

1. 学術研究助成事業

感染症の基礎的あるいは臨床的研究及び感染症に関する疫学的研究を行っている若手（満 50 歳以下）の個人を対象に、一般細菌感染症、真菌感染症、ハンセン病、リケッチア症、寄生虫病などの研究課題に対して、公募により申請された研究計画を審査、選考の上、令和 7 年度は第 52 回目の学術研究助成金受贈者を決定し、令和 8 年 3 月に贈呈式を執り行う。

ただし、第 51 回学術研究助成金選考委員会において「学術研究助成金申請書」の第 6 項について一部改正の提案があり、下記の通り改正する。

※現 行：「申請に関連した研究で申請者または協力者が最近 5 ヶ年に他から受けた研究補助金（科学研究費を含む）」

※改 正：「申請者または協力者が最近 5 ヶ年に他から受けた研究補助金（科学研究費を含む）」

なお、令和 7 年度も引き続き助成金総額を 1,000 万円（1 件：100 万円、10 件）として予算計上する。

2. 顕彰事業

顕彰事業である次の各賞について、公募推薦された個人を審査、選考の上、受賞者を決定し、令和 8 年 3 月に贈呈式を執り行う。

(1) 令和 7 年度「第 52 回大山健康財団賞」

発展途上国において、長年医療協力に尽くし、特に感染症対策に尽力した医療関係者個人に対し、賞状、記念メダル及び副賞（100 万円）を贈呈する。

(2) 令和 7 年度「大山激励賞」

大山健康財団賞に準ずる功績のあった医療関係者を対象とし、今後一層の活躍が期待される個人に対し、賞状と副賞（50 万円）を贈呈する。

(3) 令和 7 年度「第 8 回竹内勤記念国際賞」

発展途上国において長年、熱帯医学、寄生虫学の研究に貢献し、今後とも大いに活躍が期待される若手（満 50 歳以下）の研究者個人に対し、賞状と副賞（30 万円）を贈呈する。

3. 学術集会支援事業

予防医学、感染症（細菌、真菌、寄生虫）、特に発展途上国における感染症、顧みられない熱帯病等に関する学術集会に対し、公募により申請された学術集会を審査、選考の上、学術集会支援助成金を贈呈する。

なお、令和 7 年度も引き続き助成金総額を 100 万円（1 件上限 50 万円、5 件まで）として予算計上する。（令和 6 年度よりこれまで 3 件までとしていた助成件数を 5 件までとしている。）

4. 年報作成

令和 6 年度の第 51 回大山健康財団賞受賞者、大山激励賞受賞者、第 7 回竹内勤記念国際賞受賞者及び第 51 回学術研究助成金受贈者の紹介、並びに令和 6 年度学術集会支援助成金受贈対象学術集会実施報告、第 50 回学術研究助成金受贈者研究業績報告を収載した年報 No.50 を作成する。作成費用 30 万円を予算計上する。

7. 寄付金

国際医学研究会（慶應義塾大学医学部学生組織）の第 48 次派遣団の下記の活動に寄附をすることとし、30 万円予算計上する。

【活動目標】

第 48 次派遣団は、本研究会の設立趣旨である「医の原点の実体験」、「医学、医療を通じた国際交流」を基本指針とし、独自の目標として「現地の人々と医療の未来への還元」を掲げ、地域コミュニティの人々に対して医学生が貢献できることは何か、未来にその経験をどう還元できるかについて現地での活動を通して考察する。

【活動日程】（予定）

・2025 年 7 月 13 日（日）～8 月 25 日（月）全 44 日間

【活動計画】（予定）

◎ブラジル

- ・ボアビスタ：ブラジル北部ボアビスタにおけるベネズエラ難民の医療支援活動に参加する。昨今、世界各地で多発している紛争や衝突、不安定な情勢により難民が増加している一方で国境を超える難民と受け入れ国の間での衝突も頻発している。私共は難民支援の活動に参加しその現状を自分たちの目で確認すると同時に、実際に難民の支援活動にも尽力する。母国を逃れ様々な資源やサービスに適切にアクセスできない厳しい境遇にある人々に対してすべき支援は何か、医療ができることは何か、また現在の私共医学生でも現地に何か貢献できることは何か、考察する。
- ・バリンチンス：バリンチンス市から 1 週間にわたって舟に同乗し、アマゾン川を巡回し無医村である 3 つの村を訪れる。地域特有の疾患を的確に把握した上で、迅速に診断を下していく役割を果たす医師の監督の下、その診療補助や感染症の迅速検査にも積極的に携わる。採血検査や画像検査も容易にできない限られた医療資源の中でどのように質の保った医療を提供できるのか考察する。
- ・サンパウロ：ブラジル最難関の大学であるサンパウロ大学、パウリスタ大学にて日伯医学生会議を開催する。日本・ブラジル双方の医学生がポルトガル語で共通の医学的テーマについて発表し、日伯での違いを討論する。今年の発表テーマは「日本と南米各国の医療政策と社会保障制度の比較」「日本における HPV ワクチンの現状」「日本における健康寿命の延伸について」の 3 つを検討している。この発表のため活動開始の 1 年前より外部講師を招いて現地の言語であるポルトガル語を一生懸命に習得している。
- ・ポルトアレグレ：地理的にも言語的にも医療へのアクセスへの障壁があり「医療難民」となっている日系移民に対して、大型車に乗り込み自ら医療を届けに行く巡回診療を行う森口エミリオ秀幸医師の診療に同行する。医師として人々に平等かつ公平に医療を届けることの意味、また人々にとって医療を受けるといった権利の意味について考察する。

（他、現在検討中）

以上